ふくせん福祉用具サービス計画書等

改編のポイント

令和4年3月

一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会

目次

1. はじ	ごめに	1
(1)	ふくせん福祉用具サービス計画書等、改編様式作成の背景・目的	1
(2)	令和2年度調査で明らかとなった課題	2
(3)	改編対象とした記録様式	3
2. ふく	くせん福祉用具サービス計画書(基本情報)	4
(1)	既存様式における課題	4
(2)	介護支援専門員からの意見・要望	4
(3)	改編の目的・方向性	4
(4)	既存様式からの変更点・改編のポイント	5
3. ふく	くせん計画プロセスシート	7
(1)	新規作成の目的	7
(2)	作成のポイント	8
4. ふく	くせん福祉用具サービス計画書(利用計画)	9
(1)	既存様式における課題	9
(2)	介護支援専門員からの意見・要望	9
(3)	改編の目的・方向性	10
(4)	既存様式からの変更点・改編のポイント	11
5. ふく	くせんモニタリングシート(訪問確認書)	13
(1)	既存様式における課題	13
(2)	介護支援専門員からの意見・要望	13
(3)	改編の目的・方向性	14
(4)	既存様式からの変更点・改編のポイント	15
6. 本会	会としての今後の取組	19
7. 参考	· 資料	20
(1)	【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)改編様式	20
(2)	【記入例】ふくせん計画プロセスシート	21
(3)	【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)改編様式	22
(4)	【記入例】ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)改編様式	23

1. はじめに

(1) ふくせん福祉用具サービス計画書等、改編様式作成の背景・目的

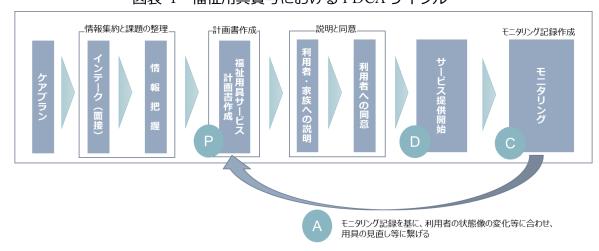
介護保険制度における福祉用具貸与の利用者は200万人を超えています。今後は日本の介護分野において、介護サービスの需要増加に対する人材確保が急務といわれています。その中で、介護現場では効果的な取組とともに、利用者へのサービスの質の向上を両立していく必要があります。そうした介護現場の取組の中には、福祉用具を使って効果と効率化を図る試みもされています。

このような背景を踏まえ、介護現場では科学的介護の推進の検討が図られています。厚生労働省では、大規模データを収集し、そのデータをサービス提供に役立ててもらおうと、2021年度から情報システム(LIFE) を開始しました。データを活用しサービスの質の向上を促すためです。

福祉用具貸与サービスは指定基準による福祉用具専門相談員の配置というストラクチャー(構造)があり、2012 年度からの福祉用具サービス計画の義務付けにより PDCA サイクルのプロセスができたと言えます。しかし現状において、データに基づく福祉用具の提供によるアウトカム(効果)には、さらなる記録内容の標準化が求められます。福祉用具サービス計画及びモニタリングシート等を活用し、PDCA の各場面における記録の可視化を通じ、標準化を目指し、利用者の状態像の変化等に合わせた、適時・適切な福祉用具の見直し等に繋げることが重要です。

よって、本会では令和2年度及び令和3年度の老人保健事業推進費等補助金による調査研究事業を活用し、福祉用具貸与サービスの質の向上に向けて、PDCAサイクルを適正に回していくために必要な記録様式、記録項目・内容の可視化・標準化を目的としたふくせん福祉用具サービス計画書およびモニタリングシートの改編様式の作成を行いました。

本稿では、作成にあたっての現状の課題、改編のポイントを解説します。



図表 1 福祉用具貸与における PDCA サイクル

(出所) 厚生労働省「福祉用具貸与・販売の流れ」を基に事務局にて PDCA サイクルを追記・改編

¹ 厚生労働省 HP 科学的介護 22科学的介護情報システム(LIFE)について

(2) 令和2年度調査で明らかとなった課題

本会では、令和2年度老人保健事業推進費等補助金において「福祉用具サービスの質の評価データ収集等に係る調査研究事業」²を実施しました。

この調査研究事業は、実際に福祉用具専門相談員が作成した福祉用具貸与計画書やモニタリング記録に記載されている内容を収集し、その記載内容の分析を行い、利用者や家族の自立支援や介護負担軽減に資する福祉用具貸与サービスの質の評価を実施するために必要な項目の整理、方法の策定等の検討を行うことを目的として実施しましたが、現状の様式、記載内容について、以下の課題が明らかとなりました。

図表 2 令和 2 年度調査で明らかになった主な課題

○ 記載すべき項目について

- ・各様式の記入充足率にばらつきがある。
- ・福祉用具のモニタリングシートに記録すべき項目は共通化しているものの、<u>福祉</u> 用具専門相談員によって福祉用具のモニタリングにおける視点や評価が異なる。

○ 評価結果の記録について

・福祉用具のモニタリングにおける確認結果や目標達成状況の評価結果の記録について共通化されておらず、福祉用具専門相談員による様式への記載にばらつきがある。

○ 福祉用具貸与サービスの質の評価について

- ・ 「安全」「安心」など評価しにくい目標が設定されている記載が多く、<u>客観的な</u> 評価や進捗状況の把握が困難である。
- ・ 福祉用具のモニタリングシートにおいて、「目標達成状況」の「達成」「一部達成」 「未達成」の基準が統一されていない。また、「身体状況・ADLの変化」、「意欲・ 意向等の変化」の「変化あり」にチェックをつけても、自由記述を確認しなけれ ば「改善」「悪化」の判断ができない。

上記の課題を解決し、福祉用具貸与サービスの質の評価の検討に向けて、記録項目や記載 内容の基準の可視化・標準化に資する改編様式の作成を令和3年度老人保健事業推進費等補 助金「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査 研究事業」にて実施しました。

さらに、福祉用具貸与計画書やモニタリング記録は、介護支援専門員を含む多職種連携によるチームケアにおいて重要な情報発信ツールとなることから、介護支援専門員へのアンケート調査を行い、必要としている情報や福祉用具専門相談員への要望等を把握し、改編様式作成の参考としました。

² 当会 HP「福祉用具サービスの質の評価データ収集等に係る調査研究事業 報告書」(令和3年3月)

(3) 改編対象とした記録様式

今回、福祉用具専門相談員のサービス提供プロセス及び記録の標準化、また、多職種連携 の促進を目的に以下の記録様式について改編案を作成しました。

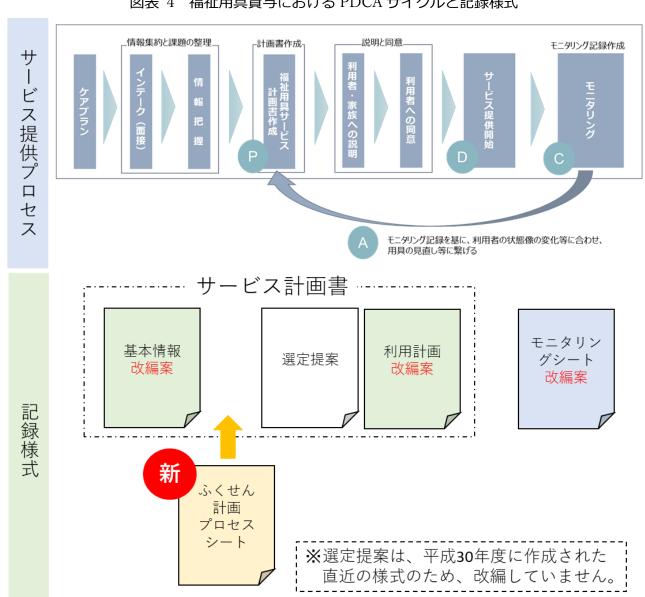
また、今回新たに福祉用具専門相談員が基本情報から得た情報を利用計画に落とし込む際 のプロセスの見える化を目的とした「ふくせん計画プロセスシート」を作成しました。

次章より、各様式に対する令和2年度調査での課題、令和3年度調査を踏まえた介護支援 専門員からの意見・要望、改編の目的・方向性について、具体的にご説明します。

図表 3 改編対象とした記録様式

- ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報、利用計画)
- ふくせん計画プロセスシート ※新規作成
- ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)

図表 4 福祉用具貸与における PDCA サイクルと記録様式



2. ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)

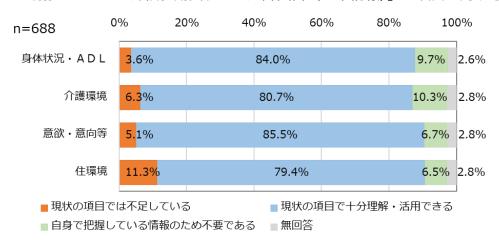
(1) 既存様式における課題

令和2年度調査で把握された改善すべき課題は、以下のとおりです。

- 記録項目はほぼ統一されているものの、その記入充足率は100%にはなっていない。
 - ▶ 既存様式において、自由記述となっている「障害高齢者の日常生活自立度」の記入率は37%、「認知症高齢者の日常生活自立度」の記入率は24%であった。
 - ▶ 利用者の「身体状況・ADL 項目」の記載状況は、13 項目中9項目の記入率は80% を超えているものの、「屋外歩行」「食事」「更衣」「意思の伝達」については記入 率が80%を下回っていた。

(2) 介護支援専門員からの意見・要望

既存の「ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)」の項目である「身体状況・ADL」、「介護環境」、「意欲・意向等」、「住環境」それぞれについて、概ね8割前後の介護支援専門員から「現状の項目で十分理解・活用できる」との評価が得られました。一方で、一部の介護支援専門員からは「現状の項目では不足している」といった回答もありました。福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項としては、利用者の身体状況・ADL等に関する意見・要望が最も多く、具体的には、疾患・既往歴や、病状、服薬状況、認知症の有無・程度等が挙げられました。その他、利用者・家族の意向や介護環境、住環境等についても具体的な状況の把握を望む声も寄せられました。



図表 5 既存の「ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)」の項目に対する評価

(3) 改編の目的・方向性

上記(1)(2)を踏まえ、利用者の疾病・疾患、禁忌・注意事項などの医療情報について、より詳細な情報を把握・記録いただくことを目的に、項目の追加、選択式への修正を行いました。意欲・意向等は介護支援専門員からの相談内容と合わせ、利用者の状況に適したより効果的な福祉用具の選定につなげていただくことが目的であり、記入充足率の向上を図るために、意欲・意向は最上段にまとめ、医療関連事項も欄を大きく、集約しています。新たに「転倒・転落」「活動・参加」についても設けました。高齢者の事故において多い「転倒」のリスクを少しでも減らすのが目的です。いずれも、福祉用具の選定の際の配慮や検討に役立ててもらうためです。

(4) 既存様式からの変更点・改編のポイント



【変更点・改編のポイント】改編のポイントをまとめました。記載に当たっての例示や注意事項は記 入例をご覧ください。

① 意欲·意向、相談内容

「意欲・意向」は、福祉用具専門相談員として最も重視いただきたい事項であるため、最上段 へ移動しました。

② 疾病・疾患、禁忌・注意事項・服薬情報等

身体状況等についてより詳細な情報を把握し、福祉用具の選定につなげていただくため、疾病・疾患を記載後、疾病に起因する禁忌・注意事項・服薬情報等を記載する欄を設けました。

③ 【新規追加】関節可動域障害・高次脳機能障害・認知症の有無

身体状況等についてより詳細な情報を把握し、福祉用具の選定につなげていただくため、新たに項目を設けました。

④ 障害日常生活自立度、認知症の日常生活自立度

令和 2 年度調査において特に記入充足率の低かった「障害日常生活自立度」及び「認知症の 日常生活自立度」を、記録しやすいよう選択式に修正しました。

⑤ 家族構成・主介護者

主介護者を明確にすることで、その後の連絡等が円滑になるよう、家族構成と主介護者の記入欄を分割しました。

⑥ 【新規追加】転倒・転落の経験

福祉用具の選定の際に重要となる転倒・転落のリスクを把握するため、転倒・転落の経験を確認・記載する項目を新設しました。

⑦ 【新規追加】活動・参加

利用者の生活や活動範囲等を把握し、福祉用具の選定につなげるため、外出頻度とその目的・範囲等を確認・記載する項目を新設しました。

⑧ 【削除】居宅サービス計画

記入に係る負担軽減のため、介護支援専門員から受領した居宅サービス計画書から転記していただいていた「利用者及び家族の生活に対する意向」及び「総合的な援助方針」の項目を削除しました。

9 住環境

福祉用具の選定や搬入等に関わる内容をより具体的に、かつ記録しやすいよう自由記述としていた内容を選択肢に修正しました。

ふくせん 福祉用	3旦サービス計	+画書		管理番号	0000 (No.)					
4:	本情報)			作成日	0.0						
一	T) TX /			福祉用具 専門相談員名	ふくせん	太郎	╝				
フリガナ リョ 利用者からの	の意欲や意向・相談	談内容を記載。	介【		認定期間						
利用者名	員からの依頼内容	≅去「○○介護	± }	令和3年1月1日 ~ 令和4年12月31日							
往 所	らの依頼しなどと		_	TEL	TEL 00000000						
接寄り見かり	つの似料」なこと	9 つ。									
意欲や意向・相談内容							_				
利用者の意欲・意向、今困っていること (福祉用具に期待することなど)	大腸がんの手術のただるさと倦怠感及び心いので福祉用具を利のまま家で静かに暮	ため入院、状態 めまいが強く、 用したい。入防 大	己載し	の疾病に関 、疾患に伴 な事柄、服	う日内変動	といった	- 注意				
疾病・疾患 大腸がん											
大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪											
身体状況·ADL (令和4年	₣ 1月)現在	関節可動域障害		 コ あり() ☑ なし	.]]				
身長 165 cm 体重	52 kg	麻痺·筋力低下	1	ゴ あり() 口 なし	. 				
寝返り つかまらない 何かにつかま つでできる ればできる	一部介助 ロできない	高次脳機能障害 ロ あり() 🗹									
つかまらない 何かにつかま		障害日常生活自立度					2				
		図知症の有無				〕血管性					
立ち上がり 口つかまらない 口がにつかま マできる ればできる	一部介助 ロ できない 	認知症の日常生活自立度 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□					M				
(江町なし)	一部介助 □ 全介助 	特記事項 ・手術前は毎日散歩され、ときには花の ・優療情報以外) 撮って、友達に送るのが楽しみとのこ					左				
座位 □ できる											
屋内歩行 口 つかまらない 何かにつかま 口 でできる ればできる		介護環境		1 - 1 #51	→ ∧ =# +v	ф 1 ¥	\neg				
屋外歩行 ロ つかまらない 回かにつかま ロ でできる ればできる	一部介助 🛮 できない	家族構成	- 契休	と二人暮らし	主介護者	奥様	4				
移動 口(今時か) 口見守り等 🗹	一部介助 □ 全介助	他のサービス	訪問合	=# 1	\						
視覚・聴覚は、別々にし、自由記	載から □ 全介助	利用状況		家族構成と	主たる介護	者は分け	て記				
		利用している	_	載。 家族構成	は「奥様と	二人」、「主	介護				
チェック項目にした。福祉用具の		福祉用具 (購入品含む)	1	当は、長女(i	市内在住)」	というよ	うに。				
あたって、説明が聞こえるか、操	作不分 □ 全介助	特記事項]にー[回、市外に住む:	長女が買い物で	を届けるなど	L				
ン等が見えるかという点は重要。 	□ 全介助	付記事項	いる								
意思の 造産 他者に ときどき伝達 こできる	ほとんど伝達 _ロ 伝達でき できない ない	住環境	*	富祉用具利用	1にあたり オ	担定される	ろリフ				
視覚 □ 見える ■目の前のもので □	ほとんど見え ない	900000									
	ほとんど聞こ ロ 聞こえない えない	住まいの状況		り等を検討す							
「「「」」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」	えない			忍。過去いつ	までかなど	は、本人・	・家族				
TAIL TAIL] あり → □ つまづ		_	の記憶なので	:、答えられ	.る程度で	o				
		」玄関 □ 経み・	,	ての他(2				
外出頻度 □ ほぼ毎			月1回		口 月1回ま	₹満	4				
参加が出目的等は対象を	₹様のご同行のもと介言	隻ダクシーを利用さ	れて通	阮されています	0						

利用者の「外出」範囲・目的等を把握することで、福祉用具の利用目的・選定に結び付けて考えてほしい。現在の状況とともに「通院のために外出」という現在の状況とともに、「手術前は月に 1 回はコーヒーを買いに出かけていた」と以前の状況もわかると、長期的な目標や利用者の意欲を引き出す福祉用具の利用につながる。

3. ふくせん計画プロセスシート

(1) 新規作成の目的

令和3年度老人保健事業推進費等補助金において「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業」検討委員会の議論において、福祉用具サービス提供プロセスにおける、福祉用具専門相談員の検討過程が把握できず、アセスメントによる基本情報等の収集から、それらの情報を踏まえ、どのように福祉用具を選定し、利用計画に落とし込んでいるのかが不明確であることが指摘されました。この検討過程を見える化することが求められています。

これらの背景から、今回新たに「ふくせん計画プロセスシート」を作成しました。上段は福祉用具利用に関連する介護支援専門員、各職種らとの相談、支援経過の記載になり、中段は利用が検討される福祉用具の種類と、さらに利用者の基本情報などから、「改善が期待できるADL」項目にチェックする欄を設けています。また介護支援専門員から要望の多かった住環境の記載欄で構成されています。「基本情報」の住環境は搬入搬出にあたって最小限必要な戸建・集合住宅、エレベータの有無のチェックですが、プロセスシートでは、利用者がどの場面での利用するのかということを考えられ、図示できるよう自由記載にしました。

ふくせん 計画プロセ		管理番号 利用者氏名									
介護支援専門員・他輩	雑類との演集 担当	4老会議 支	専門相談員名	g.							
年月日 対応者	神性との足跡、近日	37 太陽、人		<u> </u>							
4月日 対応日			内容								
福祉用具の利用で改善が期待できるADL											
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】 【改善が期待できるADLの評価(見込み)】											
	るADLの項目】										
福祉用具貸与 □ 車いす □ 車いす附属品	□ 寝返り	ロ つかまらな いでできる	回 何かにつかま ればできる	□ 一部介助	□ できない						
□ 車いす □ 車いす附属品 □ 特殊寝台附属品 □ 特殊寝台	□ 起き上がり	ロかまらな いでできる	ロ 何かにつかま ればできる	□ 一部介助	□ できない						
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器	□ 立ち上がり	つかまらな いでできる	g 何かにつかま	□ 一部介助	□ できない						
□ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用)	ロ ひらエから		□ ればできる		1 65att						
□ スロープ(□固定式 □携帯式)	□ 移乗	ロ 自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助						
□ 歩行器 □ 歩行補助つえ □ 認知症徘徊感知機器 □ 移動用リフト	□ 座位	□ できる	□ 自分の手で支 えればできる	ロ 支えてもらえれ ぱできる	¹ □ できない						
□ 記知症俳個感知機器 □ 移動用リント □ 自動排泄処理装置	□ 屋内歩行	ロ つかまらな いでできる	何かにつかまればできる	□ 一部介助	□ できない						
福祉用具販売	□ 屋外歩行	ロ つかまらな いでできる	何かにつかまればできる	□ 一部介助	□ できない						
□ 腰掛便座 □ 入浴補助用具 □ 簡易浴槽 □ 移動用リフトの吊り具部分	□ 移動	□ 自立 (介助なし)	□ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助						
□ 自動排泄処理装置の交換可能部品	□排泄	日立 (介助なし)	□ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助						
□ 排泄予測支援機器	□ 入浴	ロ 自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助						
住宅改修	- 7112										
□ 手すりの取り付け □ 段差の解消 □ 床材の変更 □ 扉の取り換え	□ 食事	ロ 自立 (介助なし)	□ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助						
□ 便器の取り換え □ その他付帯工事	□ 更衣	ロ 自立 (介助なし)	ロ 見守り等	□ 一部介助	□ 全介助						
判断するにあたり参考となる情報を得た場面	□ 担当者会議	□ 介護支	援専門員との同	行訪問							
刊例 9 句にめた9参考となる情報を特に場面	□ 単独訪問	□ その他	! ()						
	住環境										
【家屋(居室を含む)の桐			【屋内外·周辺環	環境で注意すべ	べきポイント】						

(2) 作成のポイント

【記入例】

ふくせん 計画プロセスシート

福祉用具利用目標及び、福祉用具の選定に関連する必要な情報の記録。支援経過記録や会議録等の要点を記載する。後日の振り返りや担当が変わった際の引継ぎ資料になる。

	介護支援専門員・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報											
年月日	対応者	内容										
令和4年1月10日	ООсм	利用者A様の相談あり。R1.1.13に同行訪問の依頼あり。										
令和4年1月11日	ООсм	利用者A様の基本情報をFAXでいただく。										
令和4年1月13日	OOCM、利用者家族	同行訪問、家屋調査										

福祉用具の利用で改善が期待できるADL											
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待でき るADLの 項目】	【改善が期待できるADLの評価(見込み)】									
福祉用具貸与 □ 車いす □ 車いす附属品	ロ 寝返り	っかまらな 何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる									
□ 単い9 □ 単い9 PM 周品 ■ 対 特殊寝台附属品	☑ 起き上がり	っかまらな <mark>▼</mark> 向かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる									
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器	┏ 立ち上がり	っかまらな ✔何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる									
控車明昌からの情報を甘に 転字の行為	移乗	自立 見守り等 ロー部介助 ロ全介助									

介護支援専門員からの情報を基に、暫定の福祉用 具種目を選択。

利用者にとって改善が期待できる ADL は何かを 検討し、ある場合は、右の項目にチェックする。 ※介護支援専門員からの情報がない場合は、基本 情報から得た情報を基に福祉用具専門相談員が 暫定福祉用具を選定することでも構わない。 る ADL の項目を福祉用具専門相談員として検討する。 検討した結果が「利用計画」の目標に繋がり、さらに福祉用具のモニタリング時の状態変化の確認に繋がっていく。なお、福祉用具の導入理由が利用者の状態の維持や介護負担軽減であるなら、本欄のチェックはつけない。

ロ 見守り等

左記の暫定福祉用具を利用することで、改善が期待でき

□ 手すりの取り付け □ 段差の解消
□ 床材の変更 □ 扉の取り換え
□ 便器の取り換え □ その他付帯工事

判断するにあたり参考となる情報を得た場面 担当者会議

ロ 更衣

口 単独訪問

☑ 介護支援専門員との 同行訪問

 福祉用具専門相談員が上記の判断をする際に、どのように情報を得たのかをチェック。福祉用具専門相談員の判断と情報収集の根拠を残しておくため。

□ 全介助

室内はフローリングで段差なし開き戸が多く歩行器操作技術の 取得が必要

て把握しておくべき場所の概略図(ラフ図)を記録。 扉や段差等、危険な場所等。外出用の車いすや歩行器など 室内で使用しないものについては、玄関から屋外への環境 を記載する。置き場所と危険個所の確認になる。

福祉用具の設置場所や、利用者の動線など、家屋内におい

利用者の生活範囲等を把握し、事故防止に向けた検討につなげる。室内環境は、初回面談等で見せてもらうことが難しいときは、無理に対応しない。利用者との関係構築が先。

4. ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)

(1) 既存様式における課題

令和2年度調査で把握された改善すべき課題は、以下のとおりです。

- 記載されている内容が、利用者にとって分かりやすく具体的な内容になっていない。
- 利用目標を設定する上では、客観的な評価や進捗状況の把握が可能となるよう定量的な目標を設定することが重要であるが、「安全、安心」等、評価が困難な記載が散見された。
- 現状の様式は自由記述が多く客観的な評価が困難である。
- 記入充足率が 100%になっていない、かつ、記載されている内容がガイドラインに即していない。

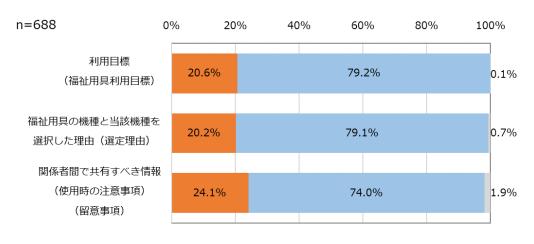
(2) 介護支援専門員からの意見・要望

既存の「福祉用具サービス計画」(ふくせん様式に限らない。ふくせん様式では「利用計画」を指す。)の項目である「利用目標(福祉用具利用目標)」、「福祉用具の機種と当該機種を選定した理由(選定理由)」及び「関係者間で共有すべき情報(使用時の注意事項)(留意事項)」の記載内容に対して、約70~80%の介護支援専門員から「現状の記載方法で十分理解・活用できる」との評価が得られました。

一方、約20%の介護支援専門員からは「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」といった評価を受けており、よりわかりやすい・活用しやすい方法として、「利用目標(福祉用具利用目標)」については、「「自立支援」「介護者負担軽減」等、目標の位置づけが把握できるとよい」、「福祉用具の機種と当該機種を選定した理由(選定理由)」については、「機種別の特徴や違いが簡易に把握できるとよい」、「関係者間で共有すべき情報(使用時の注意事項)(留意事項)」については、「誤操作や事故の危険性についての注意事項」といった意見・要望が最も多く挙げられました。

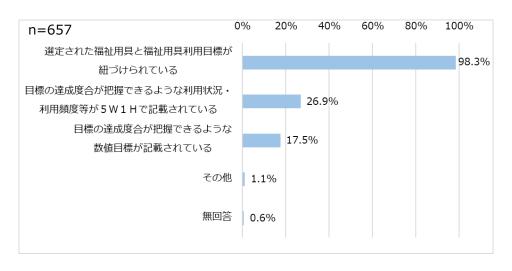
また、「利用目標(福祉用具利用目標)」については、95%以上の介護支援専門員が「居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されている」と評価している一方で、具体的な記載内容については、「目標の達成度合が把握できるような利用状況・利用頻度等が5W1Hで記載されている」、「目標の達成度合が把握できるような数値目標が記載されている」との評価は30%以下にとどまっており、**目標の達成度合が把握できるようなより具体的な福祉用具利用目標の記載が求められています**。

図表 6 「福祉用具サービス計画」の記載内容に対する評価



■現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい ■現状の記載方法で十分理解・活用できる ■無回答

図表 7 「利用目標(福祉用具利用目標)」の具体的な記載内容



(3) 改編の目的・方向性

上記(1)(2)を踏まえ、「生活全般の解決すべき課題・ニーズ(福祉用具が必要な理由)」に対し、「福祉用具利用目標」を検討する際、具体的にどのような効果を期待して目標を立てるかを明らかにし、より具体的な「福祉用具利用目標」を利用者にもわかりやすく記載することを意識してもらうための補足説明を追記することとしました。

また、介護支援専門員からの要望としてあった「機種別の特徴や違いが簡易に把握できるとよい」や、「誤操作や事故の危険性についての注意事項」の記載についても、福祉用具専門相談員としてより具体的に記載することを意識してもらうために補足説明を追記しました。

(4) 既存様式からの変更点・改編のポイント



【変更点・改編のポイント】

① 【新規追加】目標見直し期間(ケアプランに準拠)

福祉用具利用目標の達成状況を定期的に評価し、目標の見直しを図ることで PDCA サイクルを回していくことができます。福祉用具の利用目標は、介護支援専門員から受領するケアプランと連動するものであるため、ケアプランに準拠し、「短期目標」「長期目標」のいずれかを選択する項目を設けました。

② 福祉用具利用目標

「最も重視する目的」の欄を追加し、福祉用具利用目標を記載するにあたり、「自立支援」「心身機能の維持」「介護負担の軽減」のどの項目を最も重視して目標を立てるか意識付けのための項目を設けました。

補足説明として「利用目標」に「【品目】を使って【生活場面】の【何の動作】が【どの程度】 【可能になる】を明記する」と明示しました。計画を作成するのはベテランとは限りません。福祉 用具専門相談員の経験年数や研修などによる記載のバラつきをなくすためです。

③ 選定理由

福祉用具専門相談員として、なぜこの福祉用具を選定したのかを具体的に記載してもらうために記載例:利用者の【状態】、環境の【条件】を考慮し、【機能・特性】を活かした機種を選定しました。」を補足説明として追記しました。

④ 留意事項

項目を設定したもともとの目的は「福祉用具を安全に利用するために特に注意が必要な事項、 日常の衛生管理に関する留意点」の記載でしたが、福祉用具専門相談員による記載漏れをなくす こと、さらに介護支援専門員からの要望としてあった「誤操作や事故の危険性についての注意事 項」の記載というご意見も参考に、補足説明を追記しました。

ふくせん 福祉用具サービス計画書(利用計

性別

□心身機能の維持

福祉用具の利用目標は、介護支援専門員か ら受領するケアプランと連動するものであ るため、ケアプランに準拠し、「短期目標」 「巨期日煙」のいずわかを選択

歩行器を使用し自宅内を歩けるようにすることで、転倒のリス

福祉用具利用目標を記載するにあた り、最も重視する目的を明確にするた め、1つだけにチェックを入れる。

> 生活全般の解決すべき課題 (福祉用具が必要な理由) 自宅での起居動作を一人で行いた

自宅内での移動動作を一人で行い

	男性	M·T·⑤19年	0.046.0	「政州日保」のバタイルで選択。									
_	方注	M. 1.02)19 #	0月10日	70	32 /1090	13/15/0	7-17]1-0		71010				
_	00	担当ケアマ	7*ジャー	000	0	目標見直し期間 (ケアプランに準拠)	□ ∀	長期 短期					
1	最も重視す	る目的		([品E	具利用 】を使って との程度】	【生》	苦場面】の【何の動 になる】を明記する	作]が (i)					
	自立支援 心身機能の 介護負担の	/維持					ッドからの起き上が 天回数を増やしてい		が、自				
V	自立支援		45/7.29	を 使田	11. 白宝肉:	を非け	- ストスにオスニシア	· 由于(各)	(MHZ				

補足説明に従い、具体的な福祉用具の種類(品目ごとに利用目標を記載。なお一体的な利用が想定される付属品 は、一緒に記載してよい。生活動作の改善ではなく、介護負担軽減が目的の場合は、特殊寝台・付属品を使って 「ベッドでの起き上がり、食事介助にかかる妻の腰にかかる負担を軽くする」と生活場面の何の動作に関する負 担軽減が期待できるのかを書く。

生年月日

品目 単位	選定理由
機種(型式)	(記載例:利用者の【状態】、環境の【条件】を考慮し、【機能・特性】を活かした機種を選定しました。)
特殊寝台 〇〇	~ Nature/Jec/(1191e)中でNation Company Nation (立つ)上ツツ 知らで 电動 同じ副類 Nation City
00^vF	助できる特殊寝台を選定しました。
特殊寝台付属品 〇〇	◯ ご本人がベッドから落ちて怪我をされないように、ベッド本体の規格と適合するサイドレー
00サイドレール	ルを選定しました。
特殊寝台付属品 〇〇	寝返りや起き上がり、立ち上がりの動作を支え、 歩行車に移るときに支持部が

しました。

やすいよ

が利くよう

利用者、家族及び介護支援専門員等に認識しておいて 欲しい事項について、補足説明)に従い、具体的に記載。 注意事項は、わかりやすく記載する。利用者の状態によ ってはケアプランの目標見直し期間よりも早くに福祉 用具のモニタリングすることも考えられるため、必要 な利用者には次回訪問予定日について記載。

利用者の状態と環境面から、具体的にこの仕 様を選定したと選定理由を記載。利用者に渡 すものであるため、略語や利用者の状態や疾 病に対しては配慮し、わかりやすく記載。

留意事項

(福祉用具を安全に利用するために特に注意が必要な事項、日常の衛生管理に関する留意点、認定審査会での意見、次回のモニタリングの時 御生)

▶特殊寝台について

リモコンはマットレスの上に置いていると誤って触れてしまいベッドが動いてしまうことがありますので、サイドレールに かけてお使いください。

●歩行車について

室内操作の環境を考えて選定しましたが、初めてお使いになるので、定期モニタリングよりも早めに、一度、使用状況 を確認のためお伺いしたいと思います(〇月頃)。

☑ 私は を受	、貸与の候補となる福祉用具の全国平均貸与価格等 けました。	明	日付		С	〇年 〇	月	○ В	
☑ 私は 提示	、貸与の候補となる機能や価格の異なる複数の福祉 を受けました。		署名		利用者A				
☑ 私は 同意	、福祉用具サービス計画の内容について説明を受け、 し、計画書の交付を受けました。	内容	12 ((続柄)代筆	者名 ()		铂
事業所名	00000000000		福祉月	用具専門相談員	Ş	べせん	太郎		
住 所	00000000000	TEL	×	(X-XX-X	×××	FAX	××-×>	<-×>	<××

5. ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)

(1) 既存様式における課題

令和2年度調査で把握された改善すべき課題は、以下のとおりです。

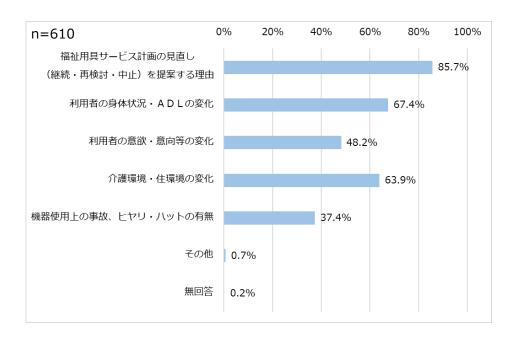
- 福祉用具専門相談員によって福祉用具のモニタリングにおける視点や評価が異なる。
- 福祉用具のモニタリングにおける確認結果や目標達成状況の評価結果の記録について共通化されていない。
- 「身体状況・ADL の変化」、「意欲・意向等の変化」の「変化あり」にチェックをつけても、自由記述を確認しなければ「改善」「悪化」の判断ができない。
- 記入充足率が 100%になっていない、かつ、記載されている内容がガイドラインに即していない。

(2) 介護支援専門員からの意見・要望

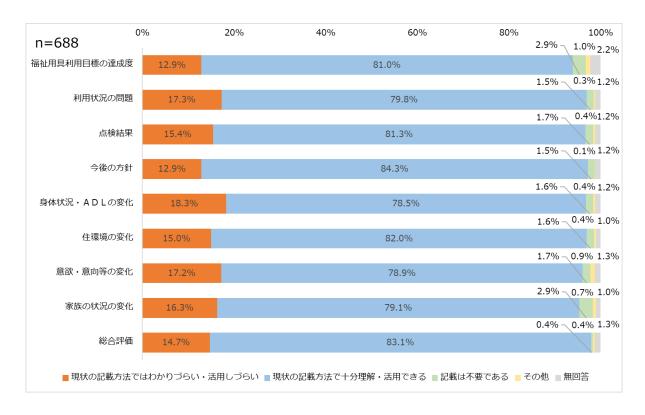
介護支援専門員は、福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果のうち、福祉用具サービス計画の見直し(継続・再検討・中止)を提案する理由や、利用者の身体状況・ADLの変化等の情報を特に参考としていることが把握されました。

また、既存の「ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)」の項目と評価指標に対しては、全ての項目について、約8割前後の介護支援専門員から「現状の記載方法で十分理解・活用できる」との評価が得られています。一方で、「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」との評価も10~20%程度あり、わかりやすい・活用しやすい記載方法としては、福祉用具利用目標の達成度の基準が示されているとよい、利用状況や点検結果に問題がある場合は、その具体的な問題が記載されているとよい、福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい、前回の福祉用具のモニタリング実施時からの身体状況・ADLの変化が記載されているとよい、等の意見・要望が挙げられました。

図表 8 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果において、参考としている情報



図表 9 既存の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価

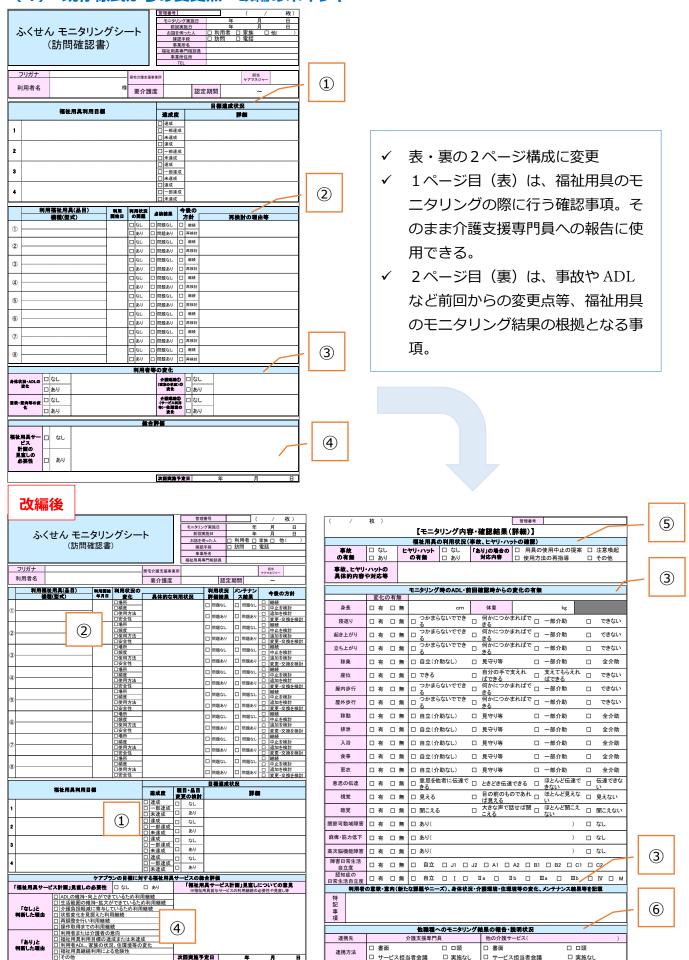


(3) 改編の目的・方向性

上記(1)(2)を踏まえ、福祉用具専門相談員としてのモニタリング時の評価結果を明確に示すとともに、そのエビデンスについても記録し、介護支援専門員への報告・共有に活用されることを目的としました。

福祉用具専門相談員としての視点で確認した、「利用者の身体状況・ADL の前回訪問時からの変化」等は、これまで記録に残していない内容でした。しかし、実際には福祉用具のモニタリング訪問時に多くの福祉用具専門相談員が確認しており、かつ、前回訪問時からの変化等を踏まえ、福祉用具サービス計画の見直し(継続・再検討・中止)を介護支援専門員へ提案している実態があり、このような取組が福祉用具専門相談員としての専門性によるサービス提供であるといえます。書式と項目は増えましたが、チェック項目にすることで、記載に関わる負担の軽減と、今後のデータ集約に資するようにしました。この様式を活用いただくことで、福祉用具専門相談員ごとに福祉用具のモニタリング時の視点や評価のばらつきを抑制し、更に、適正にPDCAサイクルを回していくことに繋がることを期待します。

(4) 既存様式からの変更点・改編のポイント



【変更点・改編のポイント】

福祉用具専門相談員がモニタリングする際の流れに沿って作成しました。裏面は福祉用具専門相談員が個々に確認している事故、ヒヤリ・ハットの確認結果や対応内容、利用者の身体状況の変化等の 把握結果の記録を目的としています。

① 目標達成状況

「福祉用具利用目標」別に達成度を評価し、「種目・品目変更の検討」の有無を明示できるよう選択肢を設けました。

② 利用福祉用具(品目)別の点検結果等

これまではメンテナンスに関する記録が主になっていたため、福祉用具のモニタリングの記録・確認すべき視点として、「利用状況の変化」「具体的な利用状況」「利用状況評価結果」及び、「今後の方針」について、貸与している用具別に確認し、判断した結果を記録できるようにしました。

③ 【新規追加】利用者等の変化 → 福祉用具のモニタリング時の ADL・前回確認時からの変化 の有無

基本情報の ADL(初回の福祉用具のモニタリングでない場合は前回の福祉用具のモニタリング時の ADL)と比較し、変化の有無を総合評価のエビデンスとして記録しておくため、新たに項目を設けました。

また、これまで自由記述で記録していた情報は「特記事項」として自由に記載できるように変更しました。

④ 総合評価 → ケアプランの目標に対する福祉用具サービスの総合評価

これまでは、「福祉用具サービス計画の見直しの必要性」の有無と自由記述のみであり、自由記述において見直しの必要性に関する理由を明確に記載できていない事例がありました。よって、今回の見直しにより、「「福祉用具サービス計画」見直しの必要性」の有無とその理由について、想定される理由を選択肢の中から選べるようにし、別途、自由記述欄(「福祉用具サービス計画」見直しについての意見)を設けることで福祉用具専門相談員としての判断を適切に介護支援専門員に提示できるようにしました。

⑤ 【新規追加】福祉用具の利用状況(事故、ヒヤリ・ハットの確認)

福祉用具に関連する事故防止は、課題です。これまでのふくせんモニタリングシートには記録できる欄はありませんでしたが、現場の福祉用具専門相談員は個々に確認している実態があり、更にリスクに関する情報は多職種連携において重要な情報です。よって、記録項目として新たに項目を設けることで、福祉用具のモニタリング訪問時の必須確認項目とし、積極的なリスク把握を促し、福祉用具の見直し、再指導等が適切に実施できるようにしました。ヒヤリ・ハットは利用者・家族もあったとしても忘れているかもしれませんが、福祉用具専門相談員が確認することで、「危険」に気が付く機会となります。

⑥ 【新規追加】他職種への福祉用具のモニタリング結果の報告・説明状況

多職種連携に資する情報を含めることも念頭に置き、新たに項目として入れました。福祉用 具のモニタリング結果の報告・共有については、口頭のみで実施しているケースもありますが、 介護支援専門員だけでなく、本様式を多職種連携のツールとして活用してもらうことを意識付 けるために、新たに項目を設けました。

	ふく		管理番号 モニタリング実 前回実施日 お話を何った 確認手段 事業所名 福祉用具専門相		施日 日 二十	○○○○ (1 / 1 枚)									
	フリガナ		シャエー 用者A		居宅介護支援事	業所		0	000			担当ケアマネ:		00	
	利用者名		要介護度		要介護				間 令和3年	1月1日 ~	令和4	年12月31日	<u>, </u>		
		祉用具(品目) 釋(型式)	利用開始 年月日	利用状況 の変化	具体的な	利日	批況		リ用状系 手価結果		メンテナ ンス結果	今	後のブ	針	
			令和4年	口場所	介助されること				問題なし		■ 問題なし	図 組	続・	±4	1
1	0) 〇ペッド		□使用方法 □安全性	離床できている 度も多くなった。				問題あり		□ 問題あり	口道	加を検		
	特殊	要台付属品	令和4年	□場所	a°1°4√> ±= # -	+40 7	7 = 1,457.41	<u> </u>	問題なし		☑️問題なし	2 総	続		
2	00-	サイドレール		□使用方法	ペッドから転落 用できている。	er in	2CC/4/41		問題あり		□ 問題あり	口道	止を検 加を検	討	:
	特殊	· 寝台付属品		☑安全性 □場所	起き上がり立ち	Εħ	い 移乗時	4	問題なし		✓ 問題なし	2 総	続	奥を検討	:
3		····································		□使用方法	に毎回使用され	てお	り、動作時		問題あり		□問題あり	口追	・止を検 加を検		1
		システント 寝台付属品		☑安全性 □場所	V) X Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z Z	-00	'°	Ξ,	問題なし	\dashv	□ IS/IEU / P </td <td></td> <td>更·交 続</td> <td>奥を検討</td> <td> </td>		更·交 続	奥を検討	
4			令和4年 1月14日	□頻度 □使用方法	立ち座り時、縁けられている。	に安	定して腰掛		問題あり				1止を検 加を検		-
)マットレス 歩行器		☑安全性 □坦亞		788	99t—99 8 5	_	回題のツ	\exists	□ 問題あり□ 問題なし		+4.0	奥を検討	-
あるこれ グ時	福祉用具の具体的な利用状況を把握・記録。頻度や使用方法に変化が 問題 利用福祉用具、個別の方針(継続、ある場合、利用継続で問題ないか等、今後の方針の検討に使用。従来、 口間 中止、追加、変更・交換)につい これらは中段にあった項目だが、福祉用具専門相談員がモニタリン フ、利用状況の変化、メンテナン ス結果等を踏まえ判断・記録。 日間 大学・大学を検討 日間														
8				□頻度 □使用方法 □安全性	□ 問題あり □ 問題あり □ 清加を検討 □ 問題あり □ 問題あり □ 変更・交換を検討						·]]				
		福祉用具利用目	標		連成度 種目・品目 詳細										
1	が、自分一人	属品を使用しべッドか でできるようにし、離 し自宅内を歩けるよ	床回数をは	曽やしていく	☑ 達成 □ 一部達成 □ 未達成 □ 達成		なし あり なし	1.7		多くた	び付属品がつておられ	hる			
従来	「ある」「カ	ぶし」のチェッ	クと自日	由記述とし	ていた	☑	ありなし	き	福祉	_	具利用!				を踏
が、タ	利用目標の	「最も重視する	5目的」	に合わせて	て、チェ		あり		まえ		種目・は	品目変	変更の	有無る	 を検
ック	する。この	場合のチェック	クは複数	対について	も可。		なし あり		討・	記:	録する。)			
			7	の目標に対	する福祉用具			合	評価						
	「福祉用具サービス計画」見直しの必要性														
!	「あり」と 判断した理由	☑ 福祉用具利用□ 利用者ADL、☑ 福祉用具継続□ その他	家族の状況	兄、住環! ス倍陰性	なし」「あ 記述で記載	_									を自
				介	護支援専門	貝	に伝えて	7	おきた	こしい	利用者の	の変化	公等、	福祉月	#具

_														
	(1 / 1	枚)					ヒヤリ・	ハットは前	前回からの	の有無を	:確 認			
				ニタリングロ		「あり	」の場合	には必要な	よ対応を乳	実施し、	実施			
	事故	፟ なし	福祉用 ヒヤリ・ハッ	具の利用状況	にあり」の	容を記	録してお	さく。事故内	内容は事業	業所内で	共有			
	の有無	□あり	の有無	⊈ あり	対応	るとと	もに、介	î護支援専F	門員に報行	告は必須	5 .			
			トイレの関系可	を開こうとしたとき	歩行器から記		7	そうになった。	3200					
	事故、ヒヤリ		[対応]	戸への変更を検討		_								
	具体的内容	内对胶寺		の開閉動作につい										
			E-DII	・、片味のADL	DL・前回確認時からの変化の有無									
		変化の有象		ノグ時のADL	- 的凹性酸	はからの3	を心の行為	*						
	身長	┪ □	無	cm	体	重	50	kg						
	寝返り	口有 口	無口つか	まらないでできる	□ 何か	につかまれ	ぱできる □	一部介助		できない				
	起き上がり	☑ 有 □	無口つか	まらないでできる	ゼ 何か	につかまれり	ぱできる 🗆	一部介助		できない				
	立ち上がり	有口	無口つか	まらないでできる		とつかまれ	ぱできる 🗆	一部介助		できない				
Ш	移乗	\(\vert_{\pi}\)	無口自立		_ 再門相談!	昌に 上ス	確認 利	 用者 · 家族	への問き	ま取りかり	ニーニー ら利			
利	用者の身体状況	況・ADL(につい 😤	2				前回の記録						
$\overline{\zeta}$	、前回の福祉用	月具のモニ	タリン 🎌	#										
グ	記録 (初回の補	a祉用具の [:]	モニターか	#		リンク記	球)から	変化が「有	す」の場合	יורושי -	ての			
	ングなら基本			- 内容を記 (
	有無を福祉用				情報は、イ	〕 護支援	専門員等	にも共有す	するととも	らに、事刻	業所			
		关夺]作		で管理し	ている利	用者情報	見について	ても最新情	報として	更新して	てお			
唯	雲 刃 心。		自立	き、次回	の福祉用具	具のモニ	タリング	ブ時に活用す	できるよ	うにする	5.			
	更衣	口有 口	無 口 自立	(介助なし)	口 見守	り等		一部介助		全介助				
	意思の伝達	口有 口	無 □ 意思	を他者に伝達でき				ほとんど伝達でい	^{できな} ロ (伝達できない	۸.			
	視覚	口有 口	無 □ 見え	გ	ー える		あれば見口	ほとんど見えな	ir\ □ .	見えない	_			
	聴覚	口有 口	無口間ご	₹る	口る	な声で話せり	ぱ聞こえ 口	ほとんど聞こえ	itない 🗆 🏻	聞こえない				
	関節可動域障害	□有□	無 口 あり()	_ 7	なし				
上	記以外に記録	しておくべ	き変化や、	介護支)	_ 7	なし				
援	専門員等に共	有しておく	べき情報は	こついて)	_ 7	なし				
記	載。特にない	場合には不	要。空欄で	:よい。	□ J2 □	A1 🗆 A	2 □ B1	□ B2 □	C1 🗆 (02				
	日常生活自立度	U 78 U	700		□ IIa) <u> </u>	Ⅲa 🛚	шь 🗆	IV 🗆 N	И			
	利用者の	意欲•意向(奢	新たな課題や	太)、身体:	状況・介護環	境 住環	境等の変化	こ、メンテナン	ス結果等を	記載	4			
	特 屋内移動			り自立して行いた	دل،									
	記 ・自分一人 事	(でトイレに行き)	たい。											
	項 ■介護環・ペッドから		でできるようにな	ったため、奥様の	の介助が一部が	个助から見守	りでできるよ	うになった。						
			他職	種へのモニタ	リング結果の	の報告・診	明状況				5			
	連携先		介護支援	門員	他	の介護サー	-ビス(訪	問介護)				
	連携方法	❷ 書面	7.扫尘老仝莲	☑□頭		書面			口頭					
<i>)</i>	マスチュルのー			明和談具に	∕I ୵ ᡰጠዛ⊑		ロンタム語		〕実施なし					
	アチームの一													
₽	報告・共有する	るために、	誰に、どの)ように共有	ョしたのか	、チェッ	ノクをつり	 する。						

6. 本会としての今後の取組

今回、令和3年度老人保健事業推進費等補助金による調査研究事業を活用し、福祉用具貸与サービスの質の向上に向けて、PDCAサイクルを適正に回していくために必要な記録様式、記録項目・内容の可視化・標準化を目的とした「ふくせん福祉用具サービス計画書」および、「ふくせんモニタリングシート」の改編様式の作成を行いました。

令和3年度の調査研究事業の中でも、現場の福祉用具専門相談員の協力のもと、試行運用を実施し、改善点等の意見収集・「ふくせん福祉用具サービス計画」への反映を行い、改編したところですが、試行運用にあたっては一部の福祉用具貸与事業所に限定されたものであります。そのため、本様式を本会として公表するにあたっては、引き続き、より多くの福祉用具貸与事業所に対して改編様式を用いた現場での活用方法等の確認を実施し、現場の福祉用具専門相談員の知見を収集したうえで、更なる可視化・標準化を目指したいと考えています。

また、令和2年度の調査研究事業において、福祉用具貸与事業所における既存の「ふくせん福祉用具サービス計画書」および「ふくせんモニタリングシート」の使用率をアンケート調査したところ、ふくせん様式を使用している(「一部改編して使用」も含む)と回答した事業所は7~8割であり、残りの2~3割はふくせん様式とは異なる様式を使用していることが分かりました。福祉用具サービスの質の向上に向けて、PDCAサイクルを適正に回していくために必要な記録様式、記録項目・内容の可視化・標準化を目指した様式を作成したとしても、一部の福祉用具貸与事業所のみが使用していては福祉用具サービス全体の質の向上には繋がらないと考えております。そこで、本会が実施している福祉用具専門相談員更新研修(ふくせん認定)や福祉用具サービス計画作成 SV(スーパーバイザー)養成研修等を通して、今回作成した「ふくせん福祉用具サービス計画」改編様式を含めてふくせん様式の実用性、有用性を広く普及啓発し、福祉用具サービス全体の底上げに資するよう取り組んでまいる所存です。

以上、本資料を活用頂き、ご意見を頂戴できれば幸いです。

本資料の作成にあたっては、「サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業」検討委員会委員、国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野 教授東畠弘子 氏 監修の基、作成したものです。

また、「ふくせん福祉用具サービス計画」改編様式の作成にあたっても、事務局案作成の段階から関与いただきました。

この場を借りて深く御礼申し上げます。

7. 参考資料

(1) 【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(基本情報)改編様式

	5.7#	ん 福祉用	3 5 +	ト―ビス言	十面			管理番号	} (0000 (No.)	
	2°, C		本情					作成日		0.0	. O	
		(巫)	华 [月 ·	FIX /				福祉用具 専門相談員4	ž.	ふくせん	太郎	
フリガナ	リヨウ	シャエー	性別	生年月	B	年齢	要介護原		İ	認定期間		
利用者名	利用	者A 様	男性	M·T·S 9年 8	月15日	78	要介護	3 令和3年	1月1日	~ 令和4	年12月31日	
住所		00	0000	00000	00		£	TEL		00000	0000	
居宅介護支援事	業所	00	000	00000	000)		担当ケアマネジャ	r—	00 (00	
意欲	炊や意向・相	談内容										
	意欲・意向,今 月具に期待す	困っていること ることなど)	だるさと いので	んの手術のた と倦怠感及び 福祉用具を利	用者から確認した ☑家族・介護者から確認した かため入院、状態安定し退院したが、退院後の抗がん剤の副作用で びめまいが強く、起き上がり、立ち上がりが一人ではなかなかできな 利用したい。入院中に脚が弱ったようで、転ばないかと心配だが、こ 暮らしていきたい。							
疾病∙я	疾病・疾患 大腸がん											
禁忌・注意事項 ・服薬情報等												
身体	状況・ADL	(令和4 年	F 1	月)現在	艮	関節可動域	障害	□ あり() ☑ なし	
身長	165	cm 体重		52 kg	F	麻痺・筋力値	氐下	₫ あり() 口 なし	
寝返り	っつかまらない でできる	何かにつかま ればできる	一部介助	□ できない	Ę	高次脳機能	障害	□ あり() 🗹 なし	
起き上がり	っつかまらない でできる	□ 何かにつかま 🚽 □ ればできる		□ できない				□自立□J1			□B2 □C1 □C2 □ 血管性	
立ち上がり	っつかまらない でできる	□ 何かにつかま 🚽 ればできる	一部介助	□ できない		認知症の有	無] その他()	
移乗	自立 (介助なし)		一部介助	□ 全介助	認知症の日常生活自立度 □自立 □ I □ II a □ II b □ II a							
座位	□ できる	✓自分の手で支 えればできる	支えてもらえ ばできる	^{えれ} □ できない	(医	療情報				のが楽しみ		
屋内歩行	□ つかまらない □ でできる	✓何かにつかま □ ればできる	一部介助	□ できない		介護	環境		ı			
屋外歩行	□ つかまらない □ でできる	♥何かにつかま ればできる	一部介助	□ できない	家	族構成	奥	様と二人暮ら	5L	主介護者	奥様	
移動	自立 ロ (介助なし)	□ 見守り等 🗡	一部介助	□ 全介助		サ <i>ー</i> ビス 用状況	訪問	介護				
排泄	自立 ロ (介助なし)	☑ 見守り等 □	一部介助	□ 全介助		している						
入浴	□ 自立 □ (介助なし)	□ 見守り等 🗹	一部介助	□ 全介助	福	祉用具						
食事	自立 (介助なし)	□ 見守り等 □	一部介助	□ 全介助		(品含む		 -同. 市外に	 住む長	女が買い物を	 -届けるなどし	
更衣	ロ 自立 ロ (介助なし)	□ 見守り等 🗡	一部介助	□ 全介助	特	記事項	ている					
意思の伝 達	意思を他者に 伝達できる	□ ときどき伝達 □ できる	ほとんど伝 できない	達 伝達できない		住到	環境					
視覚	□ 見える 🗡	●目の前のもので あれば見える	ほとんど見 ない	え □ 見えない	(仕事	いの状況			☑賃貸 ☑€△		 4 階)	
聴覚	□ 聞こえる 🗡	★きな声で話せ ば聞こえる	ほとんど聞 えない	」□ 聞こえない	16			レベータ			· PP/	
転倒・転落	転倒	☑ なし [」あり	→ □ つまづ	きロ	すべり	□ ₹0	D他()	
の経験	転落	☑ なし [] あり	→ □ 階段	段 🗆 玄関 🗆 踏み台 🗆 その他(
活動· 参加	外出頻度 外出目的等	口ほぼ毎月に数回、身		□ 週1回		ン一を利		回以上通院されてい	ます。	□ 月1回未	≒満	

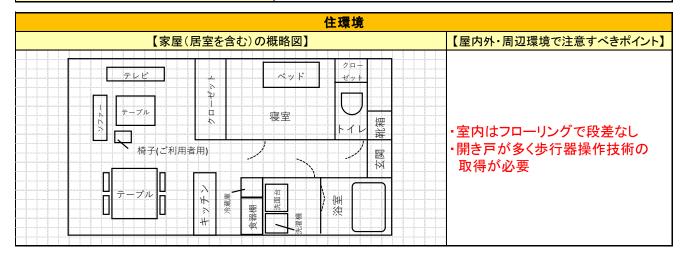
(2) 【記入例】ふくせん計画プロセスシート

ふくせん 計画プロセスシート

管理番号	0000
利用者氏名	利用者A
福祉用具 専門相談員名	ふくせん太郎

介護支援専門員・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報										
年月日	対応者	内容								
令和4年1月10日	OOCM	利用者A様の相談あり。R1.1.13に同行訪問の依頼あり。								
令和4年1月11日	OOCM	利用者A様の基本情報をFAXでいただく。								
令和4年1月13日	〇〇CM、利用者家族	同行訪問、家屋調査								

福祉用具の利用で改善が期待できるADL													
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待でき るADLの項目】	【改善が期待できるADLの評価(見込み)】											
福祉用具貸与	□ 寝返り	□ つかまらな □ 何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる											
□ 車いす □ 車いす附属品 ☑ 特殊寝台 ☑ 特殊寝台附属品	☑ 起き上がり	□ つかまらな											
□ 床ずれ防止用具 □ 体位変換器 □ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用)	☑ 立ち上がり	□ つかまらな											
□ 手すり(□置き型 □垂直式 □トイレ用) □ スロープ(□固定式 □携帯式)	☑ 移乗	□ 自立 □ 一部介助 □ 全介助 □ (介助なし)											
☑ 歩行器 □ 歩行補助つえ	□ 座位	□ できる □ 自分の手で支 □ 支えてもらえれ □ できない こだできる □ ばできる ばできる □ ばできる □ ばできる □ ばできる □ ばてきる □ はてきる											
□ 認知症徘徊感知機器 □ 移動用リフト □ 自動排泄処理装置	☑ 屋内歩行	□ つかまらな											
福祉用具販売	□ 屋外歩行	□ つかまらな □ 何かにつかま □ 一部介助 □ できない いでできる ればできる											
□ 腰掛便座 □ 入浴補助用具 □ 簡易浴槽 □ 移動用リフトの吊り具部分	☑ 移動	□自立 (介助なL) □ 一部介助 □ 全介助											
□ 自動排泄処理装置の交換可能部品	□排泄	□自立 □ (介助なL) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助											
□ 排泄予測支援機器 住宅改修	□ 入浴	□自立 □ (介助なし) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助											
□ 手すりの取り付け □ 段差の解消	□ 食事	□自立 □ (介助なL) □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助											
□ 床材の変更 □ 扉の取り換え □ 便器の取り換え □ その他付帯工事	□ 更衣	□ 自立 □ 見守り等 □ 一部介助 □ 全介助											
判断するにあたり参考となる情報を得た場面	□ 担当者会議	☑ 介護支援専門員との同行訪問											
11月17日に切りとフタリロのの日本に同りに物田	□ 単独訪問	□ その他 ()											



(3) 【記入例】ふくせん福祉用具サービス計画書(利用計画)改編様式

Š	くせ	ん 福祉月	月具サー	-ビス計画	画)	管理	番号	000	00								
フ	リガナ	リヨウシャ	· I-	性別	生年月	日	年齢	要介護度		認定期間	定期間						
利力	用者名	利用者	ťΑ	様 男性	M·T· <mark>⑤</mark> 19年8	3月15日	78	要介護3	令和3年	年1月1日 ~	令和4年	12月31日					
	宅介護 賽事業所	00000	0000	0000		担当ケアマ	マネジャー	000	00	目標見直し期間 (ケアプランに準拠		長期 短期					
生	活全般	の解決すべき調	見 ニーズ					具利用目		galanga kaya danga danga danga kaya danga da							
		业用具が必要な		最も重視す	ける目的					場面】の【何の』 になる】を明記す							
1	自宅でい	の起居動作を一	人で行いた	☑ 自立支援 □ 心身機能の維持 □ 小護負担の軽減 対一人でできるようにし、離床回数を増やしていく													
2	自宅内たい	での移動動作を	一人で行い	☑ 自立支援 □ 心身機能の □ 介護負担の	の維持					るようにすること 移動が自分でで							
				□ 自立支援													
3				□ 心身機能の□ 介護負担の													
4				□ 自立支援 □ 心身機能の	D維持												
_				□ 介護負担の													
選	定福	祉用具(レンタ)	レ・販売)							(1 /	1 枚)					
		品目	単位数					定理由									
		機種(型式)		(記載例:利用者の【状態】、環境の【条件】を考慮し、【機能・特性】を活かした機種を選定しました。)													
1		特殊寝台)ベッド		復部に力を入れ 助できる特殊寝			上げ機	幾能と、立っ	ち座りの	の動きを電動高さ	語節機	能で補					
		メック 株寝台付属品					1.ない.」	さった べっ	ルール 水本体	の規格と適合す	るサイト	ジレー					
1)サイドレール	1 ,	ルを選定しました		JK E C 1	0.0.0	·) (= (·)	1 27117	·•>>%:TICLE 17	0711						
1	特列	朱寝台付属品	. A)動作を支えることができ、歩行車に移るときに支持部が										
)介助バー	1	持ちやすい介助	バーを選定し	しました	0										
1		株寝台付属品 ウマットレス	·	ベッドからの立ち マットレスを選定		やすい。	ように、	うに、ベッドの縁に腰を掛けても沈み込みの少ない									
2	00	步行器)歩行車	·/·····	室内移動の安定 _{ンた。}	2性と小回りた	が利くよ	ように、ひじ掛けできて、小型タイプの歩行車を選定しま										
(*	富祉用具	を安全に利用する	ために特に注	意が必要な事項、	留意事 日常の衛生管		する留え	意点、認定 和	審査会で	での意見、次回の-	モニタリン	グの時					
_		台について			如笑)												
		tマットレスの上 使いください。	に置いてし	いると誤って触	れてしまい	ベッドカ	「動い	てしまうこ	とがあ	5りますので、+	ナイドレ	ールに					
		について															
		の環境を考え ^っ ためお伺いした			お使いにな	るので	、定期	モニタリ:	ングよ	りも早めに、一	度、使.	用状況					
	を叉げ	貸与の候補となました。						3付		00年0	月(B C					
	掟亦を	貸与の候補とな 受けました。					뒤	8名		利用者A		印					
∠ ′	私は、 同意し	福祉用具サービ 、計画書の交付	ス計画の内を受けました	容について説 た。	明を受け、P	物容に	(続柄)	代筆者名	()		印					
車光	(所名	000000	00000	0		福祉	用具専門	相談員	ふく	せん太郎							

(4) 【記入例】ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)改編様式

ふくせん モニタリングシート (訪問確認書)

管理番号	0000 (1 / 1 枚)
モニタリング実施日	令和4 年 2 月 28 日
前回実施日	年 月 日
お話を伺った人	☑ 利用者 ☑ 家族 □ 他()
確認手段	☑ 訪問 □ 電話
事業所名	000000
福祉用具専門相談員	ふくせん太郎

フリガナ	リヨウシャエー	居宅介護支援事業所	000	担当	00	
				ケアマネジャー		
利用者名	利用者A	要介護度	要介護3	認定期間 令和3年	1月1日 ~ 令和	4年12月31日

											-77.4	*プマー			
	利用者名	利見	用者A		要介護度	要	更介護	3	認定其	明間	令和3年1	月1日	∼ 令和4年12.	月31日	
	利用福	[祉用具(品目)	利用開始	利用状況				利用	北沿	×.	ンテナ				
		t種(型式)	年月日	の変化	具体的な	利用状況	7.	評価			ファ ノ ス結果	1	今後の方針	•	
	-	持殊寝台		□場所	介助されることな			一問題			問題なし	$ \mathbf{Y} $	継続		
1		付外で	令和4年	☑頻度	離床できている				B/みし	M	回起なし		中止を検討		
•	(つ のベッド	1月14日	□使用方法	度も多くなったこ	·横子。] 問題	重あり		問題あり		追加を検討	14 - 1	
				□安全性 □場所									変更・交換を 継続	<u> </u>	
(特殊	⊧寝台付属品	令和4年	□頻度	ベッドから転落さ	れることな	[[大利]	☑ 問題	重なし	Y	問題なし		^{・ ・} 中止を検討		
2	00	\		口使用方法	用できている。	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	5000	7 88 83	5 ± 11		8885七八		追加を検討		
	00)サイドレール		☑安全性			L] 問題	見めり		問題あり		変更・交換を	検討	
	特別	ķ寝台付属品	A = . =	口場所	起き上がり立ち	上がり、移	乗時 1	一問題	なし	\checkmark	問題なし		継続		
3	1374		令和4年 1月14日	☑頻度 □使用方法	に毎回使用され		作時					~~~~~	中止を検討追加を検討		
	0	〇介助バー	17140	□使用力法 ■安全性	の安定が増して	いる。	[] 問題	重あり		問題あり		垣川で快刊 変更・交換を	拾計	
	44 74	L ウムリロロ		口場所				/	T-4-1		00 0T 4- 1	_	継続	1201	
4	特殊	k寝台付属品	令和4年	□頻度	立ち座り時、縁し	こ安定して!	腰掛	1 問題	はなし	M	問題なし		中止を検討		
4	0	〇マットレス	1月14日	□使用方法	けられている。		Ir] 問題	頂あり	П	問題あり		追加を検討		
				☑安全性	したの明も事を	N 88 88 / - 88	1-	_]			変更・交換を	検討	
		步行器	令和4年	□場所 ☑頻度	トイレの開き戸のがあり、使用でき] 問題	重なし	Y	問題なし	₩	継続 中止を検討			
⑤		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	1月14日	口使用方法	環境に合ったも	のを再選定	<u></u>						追加を検討		
)〇歩行車	, ,	☑安全性	必要がある。	· CII	1	一問題	見あり	ם	問題あり		変更・交換を	検討	
				□場所			ı] 問題	なし		問題なし		継続		
6			_	□頻度 □使用方法									中止を検討		
				口使用方法] 問題あり		問題あり		追加を検討 変更・交換を	ね計	
				口場所			١.		E-4-1		00 8T 4-1		継続	1201	
7				□頻度			L	一問題	はなし		問題なし		中止を検討		
Θ				□使用方法			Ir] 問題	頂あり	П	問題あり		追加を検討		
				□安全性 □場所				_					変更・交換を	検討	
				□頻度			[問題なし			問題なし		継続 中止を検討		
8			~	口使用方法			ļ-	7 88 8	5 to 11		問題あり		追加を検討		
				□安全性			L] 問題あり		问起のり		変更・交換を	検討	
								目標	達成状	況					
		福祉用具利用目	標		達成度	目后	詳細								
,					_	変更の	検討				Д				
4	特殊寝台•付	・属品を使用しベッドか	らの起き.	上がり動作	☑達成	☑ な	<u>ا</u> ا	持殊項	夏台およ	てび・	付属品を	上手	€に使用され	、離	
		、でできるようにし、離り			□ 一部達成 □ 未達成	□ あ		床頻度も多くなっておられる							
	歩行哭を使り	用し自宅内を歩けるよ [、]	シニオスニ	トで 転倒の	□ 達成		. +								
2	リスクを減ら	し、トイレ、台所までの	カーテるこ 移動が白・	分でできるよ	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	口なり				= σ	開閉に	問題	があり、使用	で	
	うになる	or to constant con	ржи — .	, , , , , ,	★達成	☑ あ	i) t	きてい	ない						
	9 . = 0 . 0				□達成	ロな	1.								
3					□ 一部達成										
			口 未達成	□ あ	6)										
				□違成	ロな	し									
4			□ 一部達成	口あ	L)										
			ケアプラン	ノの目標に対	する福祉用具					_					
Γ	福祉用具サー	−ビス計画」見直しの	必要性	ロなし	🗹 あり								いての意見 や見直し等		
		1 1 2 2 4 4 1 1	- 1 18			*	八田江川	六只丁	, ,,	マノヤリ	ノコヤニヤジビマノダ	TI Xe u	、元旦しサ		

│□ ADLの維持・向上ができているため利用継続 □ 生活範囲の維持・拡大ができているため利用継続 □ 介護負担軽減に寄与しているため利用継続 歩行器について見直しが必要です。 「なし」と トイレに開き戸があり、自分で扉を開閉することができない □ 状態変化を見据えた利用継続 判断した理由 ため使用されておりません。トイレ付近においては手すりの □ 再調整を行い利用継続 設置も視野に再検討が必要と判断します。 □操作取得までの利用継続 ■利用者または介護者の意向 ☑福祉用具利用目標の達成または未達成 「あり」と □ 利用者ADL、家族の状況、住環境等の変化 判断した理由 習福祉用具継続利用による危険性 □その他 次回実施予定日 令和4 **年** 3 月 31 目

管理番号	0000

【モニタリング内容・確認結果(詳細)】																						
福祉用具の利用状況(事故、ヒヤリ・ハットの確認) 事故																						
事故 の有無	E		なしあり		E		・ハット 与無		」 な! ヹ゚ あ		「あ	り」の ^は 対応内	_	☑ 戌						注意 その		
03 13 MM	•	<u> </u>	מנט			0 7 1	3 MK	E	יניט 👱	<i>-</i>		7-1 -C-1	, H		πл	ムい	7 184	F		· (0,	716	
事故、ヒ	・ヤリ・	//"	ıトの		トイレ 「対点		き戸を	用こう	としたと	:き、歩	行器	から両手	₣を離して	てしまい転	倒しる	そうにた	いった。					
具体的					開き	戸から								問題があり								
					_n	までほ	うさりの	開闭	動作に	ついて	. 再指	得を行っ	てきたか	が、操作取	以待に	至らな	かった	0				
モニタリング時のADL・前回確認時からの変化の有無																						
		茤	5化σ)有	無										1,5 71.	•						
身長		\checkmark	有		無				cm	1		体重	[50		kg					
寝返り			有		無		つかま	らない	いででき	る		何かに	つかまれ	こばできる	5 🗆	一部	介助			7	きない	
起き上が	Ŋ	\checkmark	有		無		つかま	らない	いででき	る	\checkmark	何かに	つかまれ	いばできる	5 🗆	一部	介助			7	きない	
立ち上が	Ŋ	\checkmark	有		無		つかま	らない	いででき	る	\checkmark	何かに	つかまネ	いばできる	5 🗆	一部	介助			7	きない	
移乗		\checkmark	有		無		自立(が	 ト助な	il)		\checkmark	見守り	等			一部	介助			1	全介助	
座位			有		無		できる					自分の	手で支えれ	こばできる		支え ^で る	てもらえ	ればでき		7	きない	
屋内歩行	ī		有		無		つかま	らない	いででき	る		何かに	つかまれ	いばできる	5 🗆	一部	介助			7	きない	
屋外歩行	Ī		有		無		つかま	らない	いででき	る		何かに	つかまれ	いばできる	5 🗆	一部	介助			7	きない	
移動		\checkmark	有		無		自立(1)助な	il)		\checkmark	見守り	等			一部	介助			1	全介助	
排泄			有		無		自立(が	 ト助な	il)			見守り	等			一部	介助			3	全介助	
入浴			有		無		自立(1)助な	il)			見守り	等			一部	介助			3	全介助	
食事			有		無		自立(が)助な	il)			見守り	等			一部	介助			3	全介助	
更衣			有		無		自立(1)助な	il)			見守り	等			一部	介助			3	全介助	
意思の伝	達		有		無		意思を	他者に	こ伝達で	できる		ときどき				い		達できな	ш	伝達	できない	
視覚			有		無		見える							であれば見		ほとん	んど見に	えない		見え	ない	
聴覚			有		無		聞こえる	5				大きな る	声で話せ	せば聞こえ	- 0	ほとん	んど聞い	こえない		聞こ	えない	
関節可動域	障害		有		無		あり()				なし		
麻痺・筋力値	氐下		有		無		あり()				なし		
高次脳機能	障害		有		無		あり()				なし		
障害日常生 自立度			有		無		自立	[□ J1		J2	□ A	1 🗆	A2 🗆	B1		B2	□ C1		C2		
認知症の 日常生活自			有		無		自立	[□ I]	II a l		[b 🗆]	Ша		Шь		IV	□ м	
利用	者の	意欲	•意同	匀(煮	所たれ	は課品	題やニ	ーズ)、身(体状法	兄・介)護環 均	竟∙住琇	境等の	変化	、メン	テナ	ノス結り	と 等を	記載	t	
HT	可用者(内移動			-	してで	≠. 可有	能な限り	白☆	して行に	.\t-l.\												
記・自	分一人						L'OIX)		0 () , (, ,_,	0											
	个護環5ッドから		推床が [.]	一人	、でで	きるよ	うになっ	たた	め、奥村	様の介	·助が	一部介則	力から見	守りででき	きるよ	うにな [.]	った。					
							uh PM 李	i ^ ^	ハエー	ЫUS	,) + 4	は田 小	起生	説明状況								
連携先					4		心戦性 支援専門		<i>,</i>	アリー	- ノ if	1		近明仏 一ビス(門介護	Ė)	
الرورات.		/	書面	i		1 432	-1次 寸1		<u>/</u> ;	豆首					н/Л [-971 B3			酒		,	
連携方法	去		サー		ス担ቌ	当者会	会議		□ 実		ر	_		く 担当者	会議							

令和3年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 サービスの質の向上に向けた福祉用具貸与計画書における項目の標準化に関する調査研究事業

ふくせん福祉用具サービス計画書等 改編のポイント

令和4年3月発行

発行者 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7 ローレル三田 404

TEL 03-5418-7700 FAX 03-5418-2111

本冊子は、令和3年度老人保健事業推進費等補助金の助成を受け作成したものです。